

## アーユスの おすすめ



山下良道画／幻冬舎  
／2014年5月発行  
1296円

せの・みさ

三重県の曹洞宗寺院に生まれる。  
駒沢大学仏教学部卒業後、曹洞宗宗務  
室に勤務。  
[著]『仏教とジェンダー』『ジェンダー  
イコールな仏教をめざして』(いずれも  
朱鷺書房)  
猫好きの山羊座。アーヨス会員。

著者の所属は曹洞宗だが、NGO関係者  
にも人気の高いティック・ナット・ハン  
師の薦陶を受け、その後ティラワーダ仏  
教の修行も積んでいる。日本仏教を仏教  
1.0、ティラワーダ仏教を仏教2.0と  
位置づける著者は、日本社会においては、  
それぞれの仏教の成り立ちと特長を整理  
し適切な橋渡しをすることが有効である  
として、両者を統合した仏教3.0を提  
唱する。アップデートされた仏教的魅力  
はいかに。

本  
『青空としてのわたし』  
山下良道著

映画  
『アクト・オブ・キリング』  
J・オツベンハイマー監督



ジョシュア・オッペンハイマー、クリスティン監督／バップ／  
2014年12月発売／5184円(Blu-ray)、  
4104円(DVD)

殺人の実行者が、その手口をカメラの  
前で実演してみせる。娘々として。しか  
しぬ次第に彼の目からは笑いが消える。そ  
の変化を静かに追ったドキュメンタリー  
作品だ。

舞台はインドネシア。この国ではかつて  
1965年、軍の一部によるクーデ  
ター未遂事件から、その黒幕と名指しさ  
れた共産党員たちの虐殺事件が起つ  
た。被害者は100万人と言われる。し  
かし首謀者たちは罪を問われることもなく、  
今も街の有力者として懶やかな日々  
を送っている。

その一人で、1000人以上の命を

んだろうと考えてみた。  
曹洞宗だつたら、きっといろいろ  
やつてしまふだろう。ちょっとだけ坐  
禅は必須だろし、教義関係なく占い  
とかもやつちやいそうだ。それを、一  
切れ計なことをせず、ひたすら阿弥陀  
さまの話をし続ける「僧職男子」たち  
には、こちらを丸ごと、ふんわり包み  
込まざにはおかしいような感じがあつ  
はいかに。

私が到着したときは常連さんらしい

女性が二人と、お坊さんが四、五人い  
て、後からまた常連さんらしい男女二  
人連れ、それから男性が一人と、やつ  
て、そこから何かを炒めているらしい  
いい匂いが漂つてきていた。

私が到着したときは常連さんらしい  
女性が二人と、お坊さんが四、五人い  
て、後からまた常連さんらしい男女二  
人連れ、それから男性が一人と、やつ  
て、そこから何かを炒めているらしい  
いい匂いが漂つてきていた。

ドアをノックし、予約している旨を  
告げると、笑顔で室内に招じ入れられ  
た。十二畳くらいの部屋にカーペット  
を敷き、ピンクの座布団が置いてあ  
る。部屋の一部がカーテンで仕切られ  
て、そこから何かを炒めているらしい  
いい匂いが漂つてきていた。

会場は東京銀座の奥野ビル。午後六  
時すぎに訪れるると、古色蒼然たるレン  
ガ造りのビルがたたずんでいる。木の  
手すりがついた螺旋階段を上っていく  
と、小さい部屋が廊下に沿って並んで  
いてひと気がない。ギャラリーとして  
使われているのが大半らしいが、何や  
らホラー系のアトラクションに迷い込  
んだような雰囲気である。びくびくし  
ながら探していたので、会場になつて  
いる部屋を見つけたときは、じつに  
ほつとした。

「銀座で、僧職男子つてのやつてる  
んです」と、アーユスの会合で紹介さ  
れた。お料理とお酒をいただきながら、  
「僧職男子に癒される」会だとい  
う。半年後、まだやつてあるかなと問  
い合わせをしてみたら、まだやつてい  
た。

文・瀬野美佐



なみにお坊さんはみんな淨土真宗本願  
寺派で、一人誠照寺の方が混じつて  
いたが、素人には何が違うのか全然わ  
からない。

七時開会。まずは、「おつとめ」。部  
屋の隅にしつらえられたお仏壇に向  
けであります。

その22

## 僧職男子に 癒されナイト

浄土真宗僧侶有志

「ふしぎな世界に迷い込みました」

かつて「三奉請」「讚佛偈」が唱えら  
れる。お坊さんたちの声量が半端な  
い。この建物で、この部屋から、こん  
な声が出てきたら、そうとうに怪しい  
はずだと思うが、周囲も納得している  
のか別に苦情もないようだった。

その後は、カーテンの中から出でて  
るお料理を食べ、ビールなんか飲みな  
がら雑談している。しばらくして、司  
会役の人が「そろそろお話を聞きました  
よ」と、白い紙を渡される。私は「この会  
が始まつたきつかけは?」と尋ねてみ  
た。

もともとは、「ここ」のスペースのオー  
ナーである女性(若いし美人!)が、  
お坊さんたちと知り合いで、異業種交  
流会的な集まりを持っていたという。  
それが、東日本大震災の時に、被災地  
復興支援の募金をやろうということに  
なり。この場所で、集まりを開いた。  
初めは続ける予定ではなかつたらしく  
が、「また会いたいね」が「定期的に  
会いたいね」になり、今のような形で  
定着したのだという。

それにしても、この会場で、この雰  
囲気で、法話の連続技であるから、二  
時間半の会が終わつたときにはかなり  
お腹がいっぱいになつていた。そし  
て、うち(曹洞宗)だつたら、どうな  
いかな、みたいな。

頗るくば、これからもあるの場所で、  
地道に新しいメンバーを増やしていく  
が、自宅を焼け打ちされて泣き叫ぶ女性  
や子どもたちの姿を見、また自ら被害者  
役を演じるうちに、内面に変化が生じる。  
彼が直面したのは、自らの栄光ではなく  
く、正義の名に觸れた深い闇だった。